

近代和風の数寄屋建築の現代的解釈

による動物園の提案

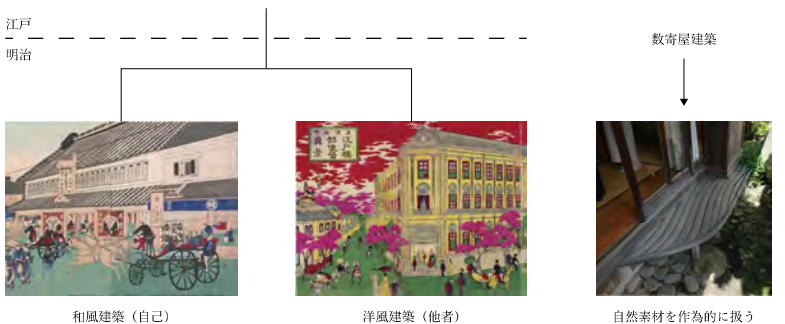
1. 背景と目的

■ 背景

「数寄屋建築」は、政財界人、豪商、華族などの「数寄者」と呼ばれる新興の階層から影響を受けた大工建築によって、日本建築の伝統と新しい西洋文化の融合を試行錯誤しながら創り出された。

それは、明治以降の西洋建築の導入による近代化によって、「洋風 (= 他者) に対する「和風 (= 自己)」が意識されるようになったことにより始まり、「Architecture = 建築」という枠組みの中で、独自の自己の立ち位置 (= 日本的であること) を相対化することにつながった。

以上の背景のもと、本研究では近代和風の数寄屋建築を対象とし、数寄屋の建築的特徴およびそれを構成する建築要素を多角的な観点から分析し、手法として具体的な設計提案および現代的な意義を提示する。



数寄屋建築の特徴の一つに自然素材に着目し、空間要素の一般的な要素や形式に対して、その個性の曲がりや特有の形状等を作為的に扱うという手法がある。それは建築に「コンテキスト (自然 = 生きている環境) から切り離されて、鑑賞する (される)」という機能を持ち込んでいる。同様のあり方をする、より公共性の高い建築として動物園があり、生きている動物に対するという点で、人間の存在に対して、より鑑賞者が没入感を得やすく、命や多様な生物の関係性の問題を主調にすることが可能なビルディングタイプである。

■ 目的

本提案では、数寄屋建築の空間要素の現代的解釈を行い、抽象化された手法を組み合わせて動物園に適用することで、近代の人間中心主義に疑問を呈する現代において、自然と人間を対立させずに、「人間も環境全体の一部である」という考え方を、空間体験を通して実感させることのできる動物園を提案する。

■ 既往研究

近代和風建築の既往研究としては、『実測調査で作成した図面から平面・断面構成を明らかにした研究』がある。数寄屋建築の既往研究としては、『スケッチにより数寄屋建築の意匠の解説を行った研究』がある。これらの研究に対し本研究では、近代和風の数寄屋建築を対象とし、建築的特徴に加え、着目されることがなかった設計手法とその一端を明らかにする。

「近代和風建築 (堀田古城園) の実態調査と空間構成・意匠に関する考察」 安藤 美咲 / 東京理科大学大学院 / 2015
「近代数寄屋の住宅3例: スケッチ解説試論」 輪島 梢子 / 法科大学大学院 / 2010

2. 数寄屋建築の分析と現代的解釈

■ 実態調査の対象建築

群馬県および近隣に現存する歴史的数寄屋建築のなかで、一般市民にも使用可能な文化財で、手がけた大工が明確な文化財である「臨江閣茶室」(群馬県前橋市)と「日科亭信濃離れ」(長野県諏訪市)を対象とし、実態調査を行った(表1)。



臨江閣茶室



菊の間



桐の間

名称	臨江閣茶室	旧科亭信濃離れ
時代	1885年	明治末期
場所	群馬県前橋市	長野県諏訪市
大工	今井源兵衛	石黒仙太郎
特徴	草庵茶室	煎茶室

平面図 S=1/200

表1 実態調査の対象建築

3. 日本における動物園の課題

■ 日本の動物園の歴史

江戸期 一見世物園地の時代一

江戸時代の封建的都市の成熟にとともに、娯楽として見世物の興行が進展した。見物客の好奇心をそそる珍奇さや希少性の高い動物が展示された。これらの施設は、孔雀茶屋や花鳥茶屋と呼ばれ、日本の動物園の前身とされている。



孔雀小屋

明治期 一上野動物園の開設と展開の時代一

1873年にウィーン万博で展示した動物を山下町(現:千代田区)の建物で飼育展示した。その後、1882年に上野への移転を契機に、附属動物園として上野動物園が開園された。動物園は、他の教化的、啓蒙的使命を担い、その時代の文化的象徴としての意義を持っていた。



山下町内博物館の表門

昭和前期 (戦前) 一戦時体制の時代一

戦時体制に国民生活が組み込まれていき、動物園も「軍用動物感謝祭」や「軍犬、軍馬」の演習が行われ、総動員体制の一翼を担った。1943年の本土空襲を境に、軍の指令により猛獣を中心とした動物が処分された。また動物園は戦災によって荒廃し、他の生活と文化における諸分野とともに動物園は危機に瀕していった。



ライオン合前で行われた猛獣の射撃訓練

昭和後期 (戦後) 一多くの動物園が開設された時代一

戦後では技術革新と生産力の増大によって新たな大衆文化が生み出された。余暇産業を肥大化させるとともにレジャーや観光の大衆化を促進し、動物園も都市から地方まで多数開園された。学術的発展により、動物地理学的展示を取り入れることで、行楽施設としてだけでなく、教育施設の社会的意義を帯び始めた。



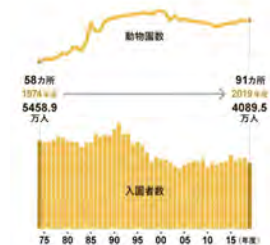
動物地理学的展示を取り入れた動物園

■ 動物園の目的

動物園の目的として「教育、レクリエーション、自然保護、研究」がある。1992年の地球サミットで生物多様性の採択を受けて、日本では日動水協が掲げた「野生動物の保全〜種の保存」と「環境教育」が加わった。しかし、人気娯楽施設としての機能が主流である日本では、動物園が博物館法による施設であり、目的を実現する手段としての組織や人材、予算、条例などの理論化に乏しいという現状が指摘されている。

現在 100 館以上の動物園が存在し、旭山動物園のように行動展示などの工夫で遠方からの訪問も多くある園もある一方で、地方の小さな動物園の多くは、施設の老朽化、展示動物の高齢化、さらに少子化による来場数の減少による閉園に追い込まれるような苦境に面している。

特に、閉園した動物園の飼育動物の行先や新たに動物を入手する方法に関して、動物園間の交換が頻繁に行われ、自然界から導入することが少なくない。一方で、根本的なレベルでは人為的コントロールがされている。



動物地理学的展示を取り入れた動物園

■ 関係性の多重な動物園の提案

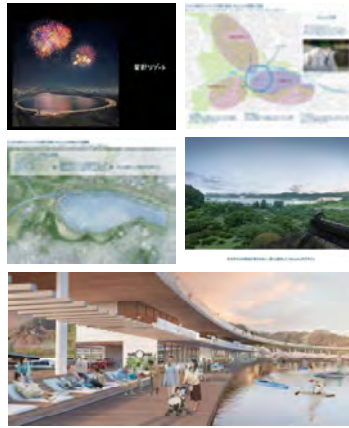
地球環境のメタファーとして、動物園に関連する生き物同士を人間も含めて同等に扱い、相互に「見る/見られる」の多重な関係性を数寄屋建築の現代的解釈による手法によって、つくり出した。展示動物同士が見つめ合っているのを来場者が見る、その来場者をまた鑑賞する来場者がいる、飼育する人間を見る世話をする動物を来場者が見る、など、幾重にも「見る/見られる」の関係性が繰り返され、人間自身が相対化される。視線の関係は従来の動物園にも多少あったが、あくまで鑑賞者中心に作られていたものを、過剰に多重化することで、「人間も環境全体の一部である」という気づきにつながる複雑な空間を考えた。



計画敷地は、日本三名園の一つである茨城県水戸市の偕楽園の下に広がる千波湖畔とする。JR水戸駅から約3km地点に位置し、多様な種類の鳥類、淡水魚類などが生息し、人の生活圏に豊かな自然が共存している。周辺には、偕楽園を中心に歴史館、美術館、劇場などの徳川からの歴史を関連する文化施設が充実し、偕楽園の敷地内にも水戸藩主の徳川斉昭が家臣や客人を招くため、庭園に面した「好文亭」(1840年)がある。現在、「偕楽園・歴史館エリア観光魅力向上構想」という再開発が進み、2019年6月に星野リゾートに提案を委託したが、提案書の実現性の低さや新型コロナウイルス蔓延の影響から、県の有識者委員会の支持を得られなかったため、2020年3月に頓挫となった。地方都市でありながら豊かな生態系や歴史との親和性という特徴より、計画地として選定した。

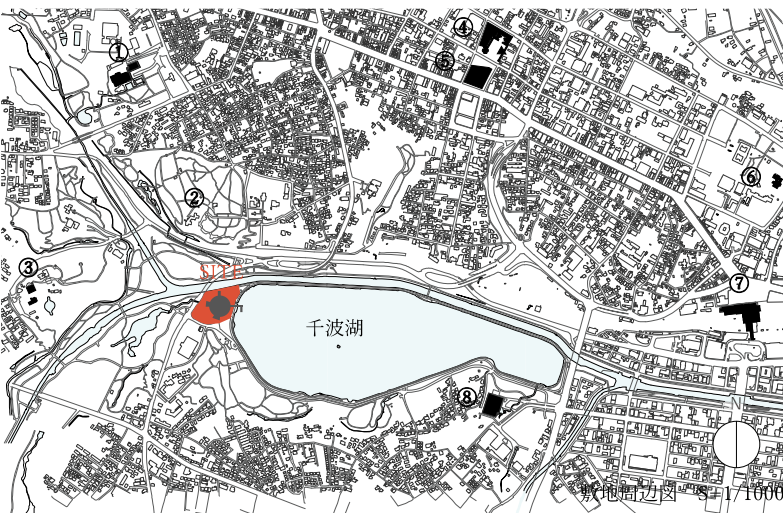


好文亭



「偕楽園・歴史館エリア観光魅力向上構想」

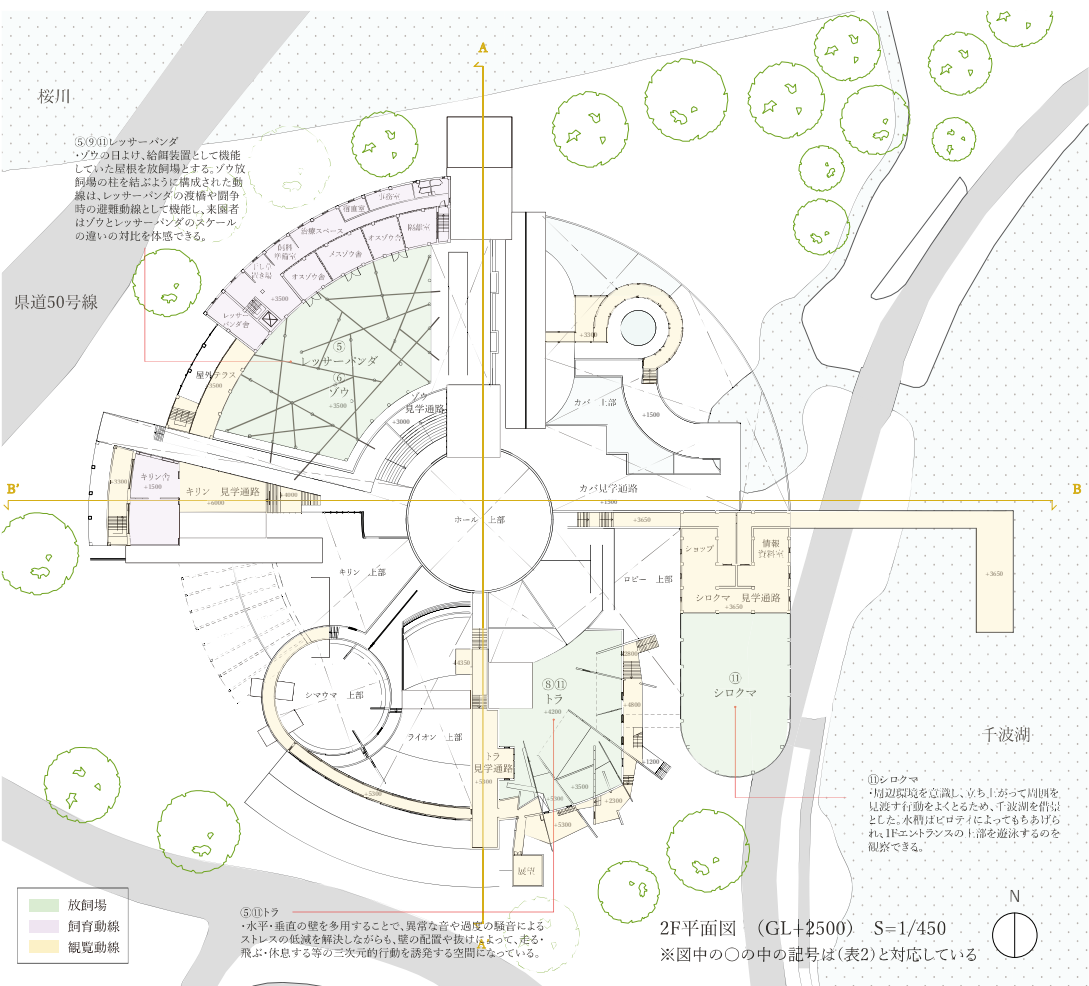
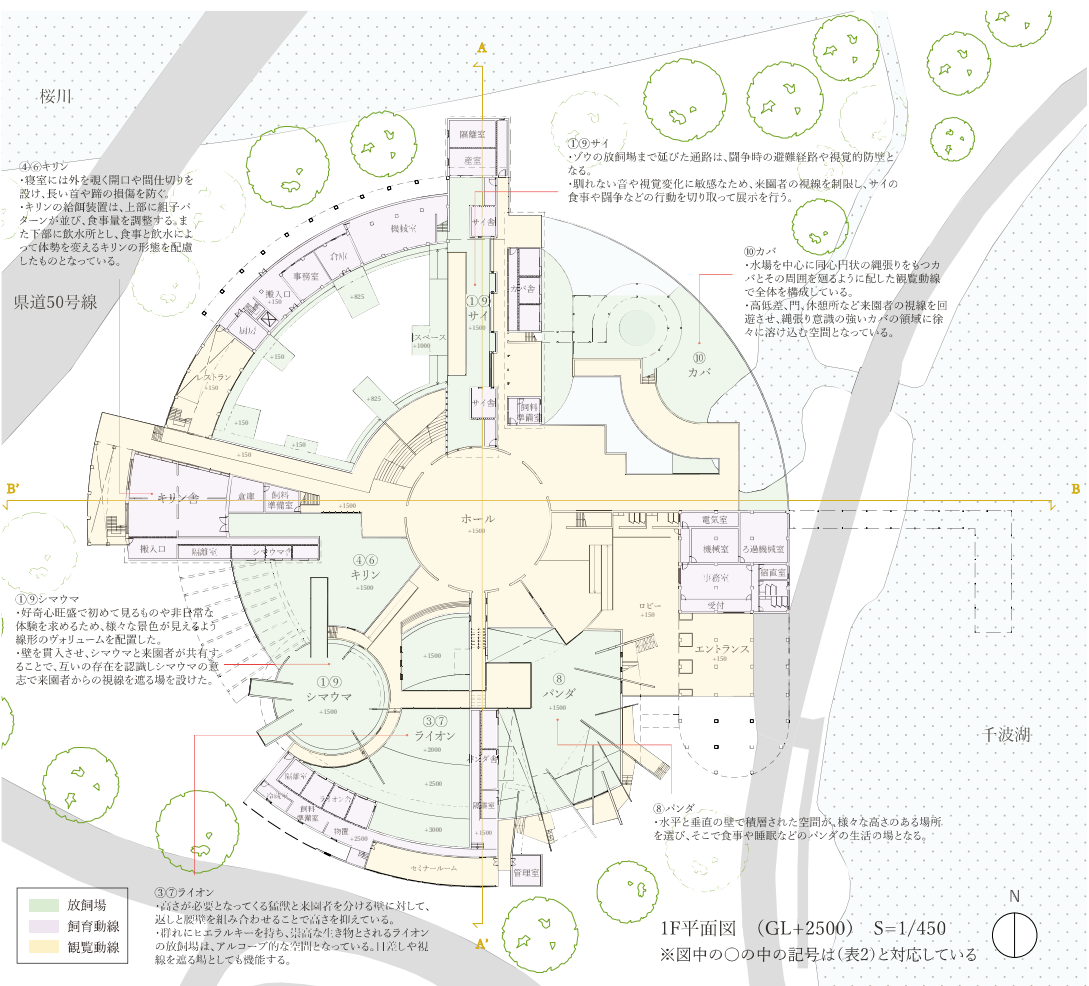
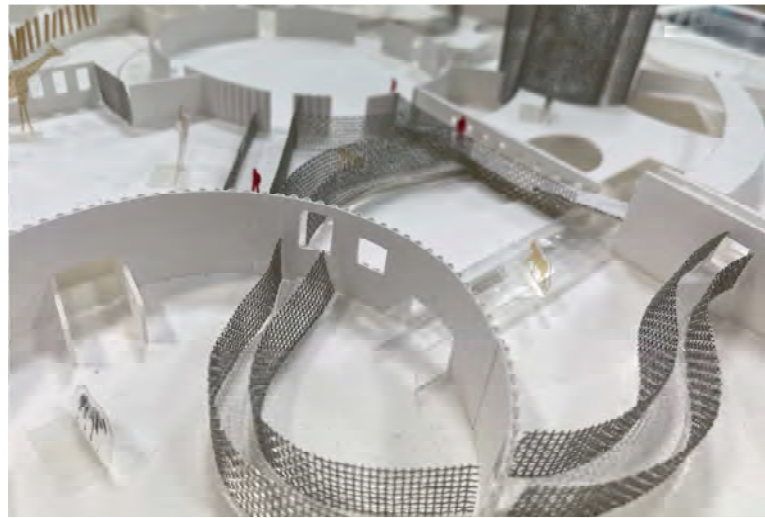
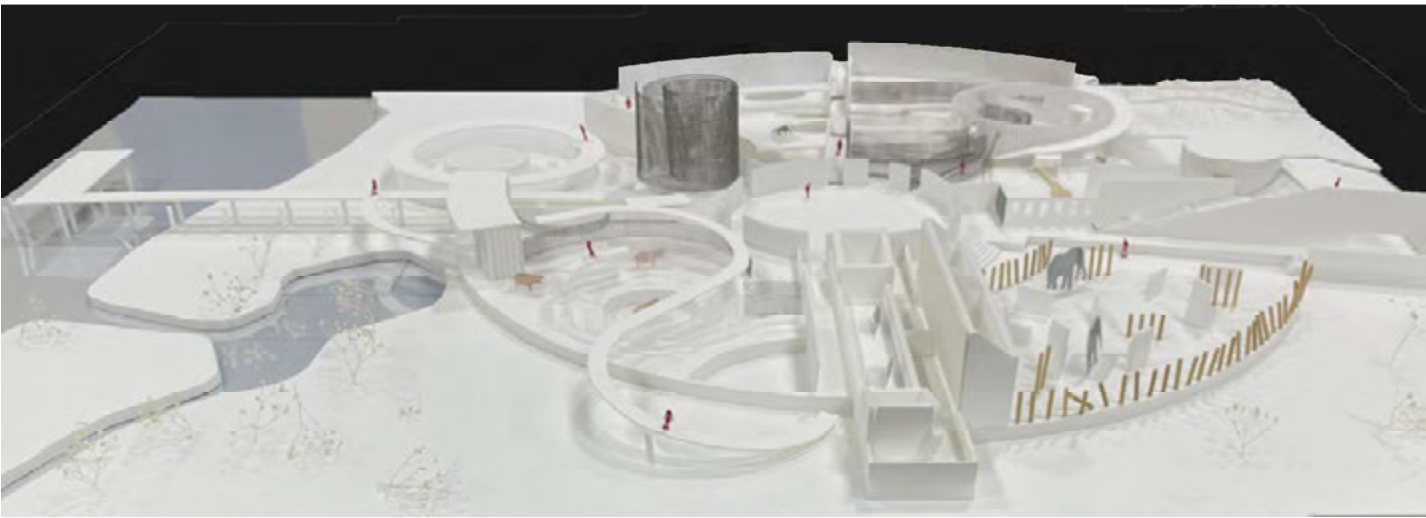
【計画期】 水戸市偕楽園歴史館 (中規模型) 歴史館再建計画	【計画期】 偕楽園 歴史館・下郷文 藝資料館再建	【完成期】 偕楽園月夜地区復興事業
2016	1年 水戸市偕楽園歴史館 再建計画が発表	
2017		
2018	10月 水戸市偕楽園歴史館 再建計画が発表	
2019	6月15日 偕楽園 歴史館再建 計画が発表	4月25日 茨城県庁の観光戦略プラン が発表 12月15日 偕楽園歴史館・下郷文藝資料館 再建計画が発表
2020	3月 観望 10月 偕楽園歴史館再建計画 が発表	2月7日「偕楽園月夜地区復興事業 計画」が発表 2月13日 偕楽園歴史館再建計画が発表 2月15日 復興事業が発表
2022	12月15日 偕楽園歴史館再建計画が発表 12月15日 偕楽園歴史館再建計画が発表	2月15日 偕楽園歴史館再建計画が発表 2月15日 偕楽園歴史館再建計画が発表
2023	現在 整備中	4月1日 1000名規模の歴史館 再建計画

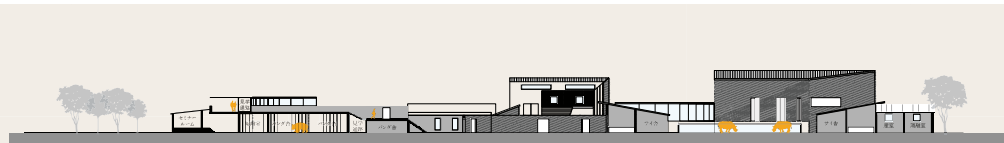
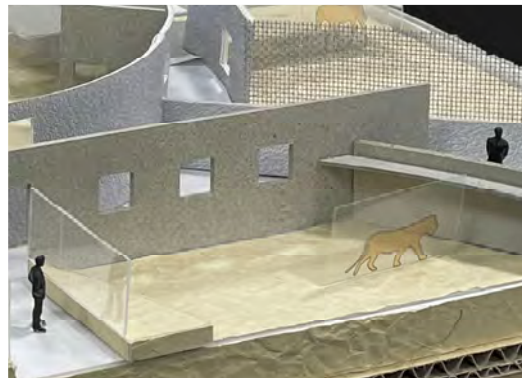
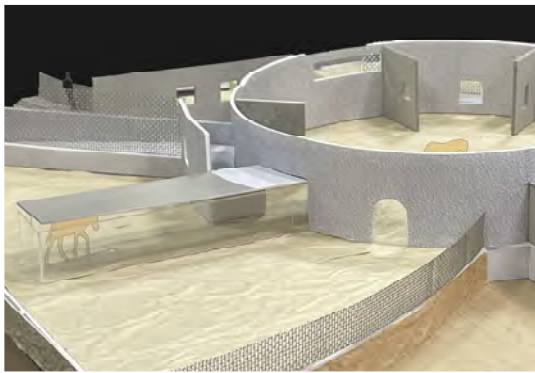
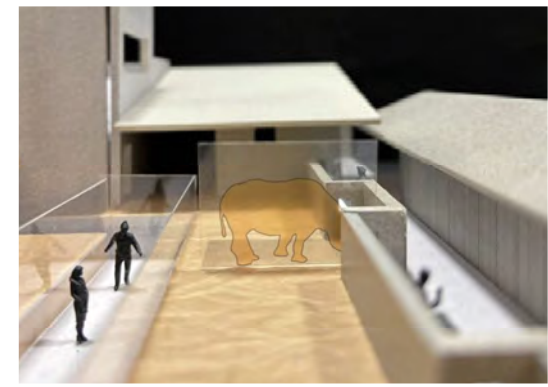
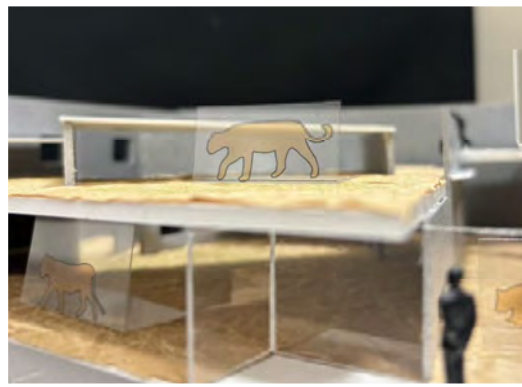


一般的な手法	数客层的な手法	事例からの抽出	現代的解釈
①下地窓 日本の和風建築における窓の一種。障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。また、障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。また、障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。	②抽壁 壁や柱から張り出した壁の奥の空間。和風の引き戸の横に設置される。主に障子の間に小窓を設けるために設置するものもある。		A. フレーミング
③懸檼 茶室に集まった人を受け取る際の休憩所として設けられた。茶室の外側の露地にも設けられている。	④庇 縁回りにかかり、雨や通風、直射日光を避け、冬の寒さを遮り受け入れの役割を果たす。		B. 入れ子・フィッダー
⑤幾何学模様 土間と水平な天井のこと。高天井は高天井に用いられることが多い。高天井が下地であり、半壁が天井と一体化するという意匠を有する。	⑥垂れ壁 建築物の天井または壁から垂れ下がる壁のこと。外観の垂直線は、開口部に応じてできる。		C. 手感と余韻
⑦床の間 日本建築における畳の部屋に設けられる。飾りや祭具を置くための空間で、障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。	⑧畳の隙 畳の隙の奥に設けられた空間。高天井は高天井に用いられることが多い。高天井が下地であり、半壁が天井と一体化するという意匠を有する。		D. 光量・リフレクター
⑨格仕口(廊下) 格仕口など移動する出入口。茶室で茶席、奥庭前以外の動きで用いられる出入口。	⑩露地 茶室へ上がる通路。障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。		E. 天井傾斜
⑪窓の隙 障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。	⑫床の間 日本建築における畳の部屋に設けられる。飾りや祭具を置くための空間で、障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。		F. 不可視パリア
⑬格仕口(廊下) 格仕口など移動する出入口。茶室で茶席、奥庭前以外の動きで用いられる出入口。	⑭露地 茶室へ上がる通路。障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。		G. ショーウィンドウ
⑮格仕口(廊下) 格仕口など移動する出入口。茶室で茶席、奥庭前以外の動きで用いられる出入口。	⑯露地 茶室へ上がる通路。障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。		H. 価値の見え方
⑰格仕口(廊下) 格仕口など移動する出入口。茶室で茶席、奥庭前以外の動きで用いられる出入口。	⑱露地 茶室へ上がる通路。障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。		I. 別世界暗示
⑲格仕口(廊下) 格仕口など移動する出入口。茶室で茶席、奥庭前以外の動きで用いられる出入口。	⑳露地 茶室へ上がる通路。障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。		J. 動線のリズム化
⑳格仕口(廊下) 格仕口など移動する出入口。茶室で茶席、奥庭前以外の動きで用いられる出入口。	㉑露地 茶室へ上がる通路。障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。		K. 気持ちは新たに作る
㉒格仕口(廊下) 格仕口など移動する出入口。茶室で茶席、奥庭前以外の動きで用いられる出入口。	㉓露地 茶室へ上がる通路。障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。		L. 身体スケール増減
㉔格仕口(廊下) 格仕口など移動する出入口。茶室で茶席、奥庭前以外の動きで用いられる出入口。	㉕露地 茶室へ上がる通路。障子の間にあたるような土壁の高さを確保し、下に、壁下の小窓を設ける。		M. 目立たない抜け

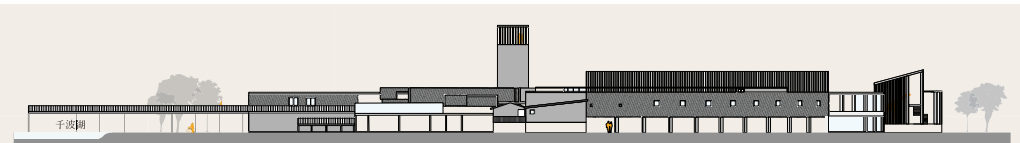
- 動物園への通用
- ①行動を切り取る【A, B, C】
- ②壁壁付能【A, B】
- ③高さ最小限化【C, F, I】
- ④柔軟な管理【A, B, E】
- ⑤ネットワーク【H, I, L】
- ⑥食事量の調整【A, F】
- ⑦アルコーブ【D, G, L】
- ⑧居場所の顕在化【B, H, M】
- ⑨遊離経路【G, I, J】
- ⑩遊離りに入る【I, K】
- ⑪3次元行動【B, H, K, M】

表2 数客層建築の現代的解釈

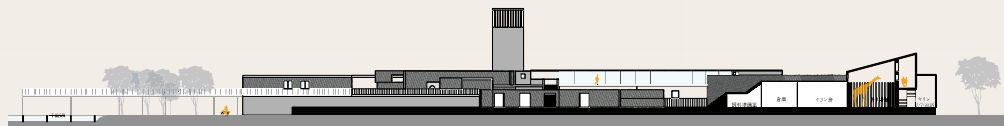




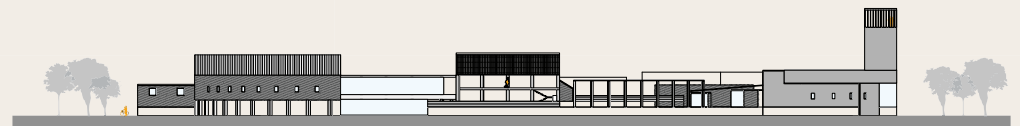
AA'断面图 S=1/450



北側立面图 S=1/450



BB'断面图 S=1/450



西側立面图 S=1/450